

過剰業務やパワハラ？ 教育現場で孤立する教員

残された一冊のノート 男性教員の突然の死



緩舘剛士さんの遺影

「何も話すことはない」と校長
何が息子苦しめたのか？

頭の隅に残った。
高浜病院から剛士さんの遺
体に戻ってきた校長と教
頭がお悔やみに来た。「学校で
どんな様子でしたか」と聞く
と「なんでもサッサとしてく
れていい人でした」という。

ともあって三方の教員宿舎を
借りていた。
四十九日の法要が済んだ頃、
若狭、美浜で一緒に働いてい
た先生たちが弔問に来てくれ
た。「毎年1、2回食事をした

頭の隅に残った。
高浜病院から剛士さんの遺
体に戻ってきた校長と教
頭がお悔やみに来た。「学校で
どんな様子でしたか」と聞く
と「なんでもサッサとしてく
れていい人でした」という。

ともあって三方の教員宿舎を
借りていた。
四十九日の法要が済んだ頃、
若狭、美浜で一緒に働いてい
た先生たちが弔問に来てくれ
た。「毎年1、2回食事をした

なぜ気付いてやれなかったのか…

特集

文責：嵯峨十郎

県内のコロナ感染者数が増え続ける4月5、6日、セレモニホール東若狭斎場において緩舘剛士さん、41歳の通夜と葬儀が、コロナ感染防止のため「廻り焼香」でしめやかに執り行われた。
祭壇にはおおい町立大島小学校職員一同、おおい町教育委員会などの生花や盛篋が供えられていた。剛士さんは生前、大島小学校の教師として教壇に立っていたからだ。
コロナが一段落した5月のある日、小誌は小浜市中井の剛士さんの家を訪問した。
小誌の訪問に戸惑う父親に「ある先生から剛士さんの死を調べてほしい」と依頼があつたのでお話しを聞かせてほしいと言つと、仏間に案内される。そこには、剛士さんがほほ笑む遺影が後飾り棚に飾られていた。

職場を休んでわずか5日で…
ただ、後悔ばかりの日々

お線香をあげさせて頂き、父親と向き合つと「息子とちょっと話しをすればよかった。後悔ばかりです」と、涙を流しながら話し始めた。

4月4日朝7時頃、剛士さんの部屋に行くと息子の身体が冷たくなつていた。何が起こったか分からず呆然と立ち尽くす父親。警察と監察医が来て調べても死因が分からずCTによる検死のため高浜病院に搬送しようとした時、大島小学校の校長と教師が来た。初め校長の顔を知った父親は「年度変わりの忙しい時にこんなことになって、迷惑をかけてすみません」と頭を下げた。校長は「私が気が付かないといけないのにごめんなさい。ごめんなさい。お父さん頭を下げてくれない」と言う言葉が何故か、

教育現場は「助けて！」と言える職場環境からほど遠い。おおい町立大島小学校の男性教員が「辛い」と言つて職場を休み、たった5日で急死した。彼が残した一冊のノートには、精神的に追い詰められた心の内が、何頁にもわたり綴られていた。残された父親は息子に何があつたのか、真実を知りたいと訴える。